

激動の昭和を生きた 映画人の叫び舞台化

作者から
メッセー

『戦ふ兵隊』などで知られる反戦平和の映画監督・亀井文夫(一九〇八―一九八六)。その生きざまと思いを舞台にした二作品が今月、港区で上演されます。脚本を手がけた作家・綾羽一紀さんから次のようなメッセージが届きました。

は難しい。ましてや戦時中
線を合わせたのだ。結果、
治安維持法で逮捕され投獄
される。

『疲れた兵隊』に視線

戦争責任や被爆者追う
不屈の精神は戦後も続く。

『日本の悲劇』では戦争責
任者を追及した。GHQは
上映を許可したが時の吉田

この時代、自身の夢や思想を貫いて生き続けること

◇

野の花の美しい自然、中国の農民たちの不安げな表情、そして行進で疲れて身体を休める兵隊たちだった。軍部の期待した戦意高揚の画面は一つもなかった。侵略戦争に反対し平和を願っていたからこそ民衆や人間としての一兵隊に視



映画『戦ふ兵隊』から(日本ドキュメントフィルム)

茂総理は上映禁止にした。第一回原水爆禁止大会の記録映画『生きていてよかった』では被爆者の十年後を追った。映画を見た当時の大統領ケネディが絶賛し、亀井をアメリカに招待した。しかし日本政府はビザを発行しなかった。何と

監督)の後、戦車や飛行機が東宝の労働争議を鎮圧した話は有名だ。暴力で文化は滅びない―彼の言葉だ。『トリ・ムシ・サカナの子守唄』という生きとし生けるものへの讃歌を映画にしたが、ウラジオストックで観た記録映画に感動し、映画館を出た時には映画監督になる決意をしている。レ

暴力で文化は滅びない 彼には幾つものエピソードが残っている。劇映画『戦争と平和』(山本薩夫と共同) ニングラードの映画学校に学び、東宝の前身であるPCLに入社、『小林一茶』など数々の名作を残した。

反戦思想を浮き彫りに 今回の公演では亀井の生き方の断片を追ってみた。『戦う兵隊』では陸軍報道部長と友人の新聞記者の眼からその反戦思想を浮き彫りにした。『骨董屋主人』は、

監督)の後、戦車や飛行機が東宝の労働争議を鎮圧した話は有名だ。暴力で文化は滅びない―彼の言葉だ。『トリ・ムシ・サカナの子守唄』という生きとし生けるものへの讃歌を映画にしたが、ウラジオストックで観た記録映画に感動し、映画館を出た時には映画監督になる決意をしている。レ

監督)の後、戦車や飛行機が東宝の労働争議を鎮圧した話は有名だ。暴力で文化は滅びない―彼の言葉だ。『トリ・ムシ・サカナの子守唄』という生きとし生けるものへの讃歌を映画にしたが、ウラジオストックで観た記録映画に感動し、映画館を出た時には映画監督になる決意をしている。レ

監督)の後、戦車や飛行機が東宝の労働争議を鎮圧した話は有名だ。暴力で文化は滅びない―彼の言葉だ。『トリ・ムシ・サカナの子守唄』という生きとし生けるものへの讃歌を映画にしたが、ウラジオストックで観た記録映画に感動し、映画館を出た時には映画監督になる決意をしている。レ

監督)の後、戦車や飛行機が東宝の労働争議を鎮圧した話は有名だ。暴力で文化は滅びない―彼の言葉だ。『トリ・ムシ・サカナの子守唄』という生きとし生けるものへの讃歌を映画にしたが、ウラジオストックで観た記録映画に感動し、映画館を出た時には映画監督になる決意をしている。レ